

Japan

代表：小菅啓子

Email:keikosuge@hotmail.com

www.agapeworldjp.org (日本語)

Tel:045-262-9471 (自宅)

090-1266-3390 (携帯)



England

代表：恵子・ホームズ

Email:agape.kingdom@gmail.com

www.agapeworld.org (英語)

Tel: +44 (0) 20-8686-4263 (自宅)

+44 (0) 7968-057-059 (携帯)

昨年8月にニュースレターを発行してから、大分間が空いてしまいました。今年の5月は、例年に無いほどの暑さが日本列島を覆いつくしましたが、ここへきて急に梅雨になってしまいました。

皆様、体調は守られていますでしょうか？

恵子さんから、紀和町の墓地がきれいになったとの嬉しい報告が届いています。そして、今年の和解の旅の日程のお知らせの前に、恵子ホームズさんと小菅啓子さんからの緊急の報告とお願いをさせていただきます。

英国での近況報告も綴られてきていますので是非お読みください。

支援会 小堀 洋志

紀和町の LITTLE BRITAIN (元捕虜たちの墓地) がきれいによみがえりました！！

三重県熊野市紀和町にある LITTLE BRITAIN を訪れる人は後を絶ちませんが、ここ数年、風化してきたブロック塀の汚れが目立ち始めました。数年前、瀬戸内海にある向島の紡績工場が取り壊しになりました。この工場は赤いレンガでできていて、戦時中は連合軍の捕虜たちの収容所となっていました。社長さんが親切にしてくださり、アガペの和解の旅では頻りに訪れ、亡くなった捕虜たちのために追悼式をしていました。そのうち、レンガの壁にメモリアル・プレートも出来、和解の旅参加者は感動して来ました。残念なことにこの紡績会社が倒産し、建物は売られ、スーパーが立つことになりました。一部の壁だけでも残して欲しいと、英国大使を始め、多くの方々が嘆願して来ましたが、却下されてしまいました。

尾道や向島の人たちの一部は、レンガの会を結成し、瓦礫の中からレンガを集め、それとメモリアル・プレートを別のところに立てることに決めました。それと同時に残りのレンガを売りました。私は記念にと 100 個のレンガを買いました。それで紀和町の LITTLE BRITAIN のブロック塀を建て直せたら---と思いました。建設業をしている弟が熊野市に住んでいますので、私の夢を話しました。100個のレンガでは何も出来ない、と弟からの返事でした。

それから2年ほど経ちました。LITTLE BRITAIN に手を加える場合、市役所の許可が無ければならないことが分かりました。去年の秋、市長さんと会って希望を語りました。しばらくして承諾の返事をいただきました。

今朝(2014年6月10日)弟から連絡があり、紀和町の墓地が装いを新たに、私たちを迎えてくれることを知らされました。弟が工事してくれたのです。足りないレンガを買い足し、墓地の中に敷き詰め、古く薄黒くなってしまったブロック塀もきれいに化粧してくれました。私たち Agape World 一同は弟(西正孝)に心から感謝しています。

この秋には（10月11日土曜日10時から）装いを新たにしたLITTLE BRITAINで恒例の追悼式を計画しています。どうぞお近くの方々は、また遠くの方も来られる方々は、お祝いと追悼とを兼ねてご参加くださいますようお願いいたします。残れる方々は、お昼を瀨流荘で一緒に頂きませんか。毎年カレーを頂いています。アガペのメンバーが皆さんにお会いすることを心から楽しみにしています。

風化が激しくなった墓地でした



レンガで床を舗装し、壁を新しく塗り替えすっかりきれいになりました



バイロン夫妻への支援の活動について（恵子ホームズ）

前回（2013年8月）のニュースレターで英国に住むバイロンと彼のお兄さんのことについて報告をさせていただきましたが、今回はその後の展開をお知らせして、皆様のご支援をお願いしたいと思います。簡単にバイロンとお兄さんについてのご紹介から始めさせていただきます。

バイロンの兄はボルネオ島での死の行進をさせられ、途中多くの捕虜が倒れていくなかで、かろうじて生き延びて目的地にたどり着きました。しかし、その地で、生き残った数十人が射殺されます、バイロンの兄もその犠牲者の一人だったのです。この死の行進では、オーストラリア兵のわずか数人が脱走、逃亡し生き延びましたが、2345人も兵士が命を落とすことになったのです。

バイロンの父は、病気で寝たきりでしたから、兄はバイロンにとって父親代わりの頼もしい、そして最愛の人でした。しかも、その兄が戦争終結のわずか数週間前に殺されてしまったのです。バイロンの悲しみは深く、いつまでも心の傷は癒えず、日本人を赦せない苦しみに50年以上さいなまれてきたのです。

しかし、彼が和解の旅に参加してくれて日本を訪問して以来、彼はすっかり日本人を赦すことが出来、心の重荷も取り去られ、その喜びを私が電話をするたびに語ってくれます。

バイロンと妻のイオナは英国ウェールズのカーディガン湾のすぐそばに住んでいて、潮騒の音を聞きながら、そして沈みゆく夕陽を眺めながらの素晴らしい生活をしていました。お二人とアガペ関係者は、すっかり仲良くなり、日本からの訪問者が彼らの家に泊ったり、彼らも私の家に泊りに来たこともありました。私も数回、泊りに行きましたが、「いつでも自分の家だと思ってね」と行くと本当に家族に会うように喜んでくれています。

そんな、彼らの生活でしたが、老いは確実に二人に忍びよっていたのです。

5月のはじめに電話をしたときのことで、バイロンはとても疲れた口調で「イオナの面倒を見るのはとても疲れるのだよ。愚痴をこぼしているわけではないけれどね。もう、僕も年だから」と言っていました。イオナはパーキンソン病で、立つと体が痛く、殆ど歩くことが出来なくなっています。

以前、彼らにお世話になったことがある小菅啓子さんが、そんなお二人の生活ぶりを知って、是非手伝いに行かせてほしいと申しでてくれました。バイロン達にこのことを伝えると非常に喜んでくれました。「アガペの活動によって、悪から善が生まれた。そして、この善はいつまでも絶えることがないのだよ」と感動しながら語ってくれました。そして、助け手が欲しいのだと感じました。

そこで、7月から8月の1カ月、啓子さんがイギリスに行くことになりました。泊りこんで家事を手伝い、イオナの面倒をみることになります。この活動をアガペワールドの活動の一環として、皆さんと共に分かち合いたいと思うのです。是非、いろいろな形で支援、参加してください。「英国までは行けないけれど、何らかの形で参加したい」と思ってお下さる方をお願いします。ある方は祈りで参加してください。ある方々は献金によって参加して下さることでしょう。示された方は、小菅啓子さんへの指定献金として支援会までご連絡くださるようお願いいたします。

追記 恵子ホームズさんのロンドンの自宅電話番号が以下のように変わりましたのでご注意ください。

Tel: +44 (0) 20-8686-4263 (自宅)

小菅啓子さんからの皆さまへのお願いです。

私は7月中旬から英国ウェールズ在住のバイロンとイオナ夫妻を訪問し、約1カ月間、滞在することにしました。それは、パーキンソン病を患っているイオナを看病、世話をしているバイロンに少しでも休む時を持ってもらいたいとの願いからです。

バイロンは長年、ギデオン協会では聖書配布の奉仕をしてきました。日本に来た時も、たくさんのギデオン聖書を持参してくれて、会う人会う人に手渡してくれていました。

「昔、私が子供のころ、中国や日本などの国名を挙げて東洋の子供たちのために祈るという歌を歌っていたんだ」と、その歌を口ずさみながら私に話してくれたことを思い出します。

私が主イエス様のことを知ることが出来たのは、このような見知らぬ人達の祈りのおかげでもあったのだということを知り、改めて主に感謝しました。

私は、当初は個人的に訪問することを考えていましたが、このことを皆様にご存知になって、物心両面で支えて送りだしていただくことのほうが、バイロン夫妻にとってより大きな励ましと慰めになることではないかと思われました。

献金のお気持ちのある方は、窓口となっています支援会まで指定献金としてお願いいたします。

小菅 啓子

いう恒例の大きなイベントがあり、それにも参加し、そこに住んでいるダグラス元捕虜ともすっかり息統合、ロンドンで楽しいひと時を過ごしました。

パメラのご主人は泰緬鉄道で捕虜でした。ご主人を早くに亡くし、日本人を憎んでいたのですが、和解の旅に参加することによって、彼女の心は憎しみから愛に変えられていきました。彼女は1997年に平戸を訪れました。船で平戸に到着した私たちを代表してパメラは真っ先に歓迎に感謝するスピーチをしてくれました。日本で思い出はたくさんあるけれど、と言ってこんなことを話してくれました。日本の若い女の子たちの発音を直してあげたのだそうです。「L」がなかなか発音できなくて、何度も練習したそうです。女の子たちは非常にまじめになって---と言いながら当時のことを思い出して大笑いしていました。彼女は私の発音も直してくれました。私の英語の文章も直してくれました。「この間違いがなんともかわいいんだけどなあ---。」なんていいながら。来年は私に Devon を訪れるようにと何度も言い置いて帰っていきました。なんて素敵なおばあちゃんでしょう！

日本大使館での和解のレセプション

これは1997年ごろから毎年夏にロンドンの日本大使館が元捕虜の人たちや何人かの軍人関係者、Agape Worldの協力者などを招いてくださるレセプションです。日本からも以前はいろんな協力者が招かれました。今年は元捕虜関係の家族の方々、新しい人たちがたくさん出席してくれました。多くの方が Agape World を知って、喜んでくださっています。みなさんとても楽しんでいました。みなさんいい人たちで、非常にリラックスした集いです。大使館の人たちも何人も出席していました。林大使が私に和解の旅について聞いてくれました。「何かしたい」とおっしゃり、「たとえ一回の食事でも協力したい」と、続けてくださり、日程を送るようにとのことでした。林大使は今回大使として赴任されて4年になりますが、以前にも大使館におられ、合計英国での赴任は7年くらいになるようです。以前いらした時は、捕虜問題が大きな壁となっていた厳しい時期でしたので、私達の活動の成果を良くご存知で、大使はスピーチにおいてもそのことに触れられました。これまでも Agape World の良き理解者です。今はもう日本政府の援助はありませんが、元捕虜関係の式典などでは、時折大使にお目にかかり、おことばをかけていただいています。もうすぐ大使は任務を終えて帰国なさることと思います。日本に帰られても私たちとの交流が続くことを祈ります。

Stephen Metcalf 宣教師との最後の別れ

炎のランナーで有名なエリック・リドル宣教師と同じ収容所に入れられていた Stephen Metcalf (15歳で捕らえられた) のことを覚えていますか。エリック宣教師の影響を受けて、収容所で日本人のために祈り、戦後多くの人々の反対を押し切って、日本に宣教師として赴き、40数年を日本人の救霊のために捧げた方です。

去年の夏、大使館のレセプションでお会いし、彼とゆっくり話すことが出来ました。あれから一年。彼を訪問したいと思い、数度電話をしましたがいつも話し中でしたし、私の E mail にもなかなか返事がもらえませんでした。

最近、突然に Stephen の息子さんから「父が入院しました。恵子に会いたがっています」という連絡が

入りました。彼は入退院を繰り返していたようです。とても忙しくて今は行けない、と思ったのですが、神様が、「恵子を待っている」と話しかけられるのを感じました。今行かなければもう会えない、と思いました。

Pam (POW の Widow) が 2, 3 日泊りに来ていて、その次は日本から牧師さんが泊まりに来る予定でした。その他にもいろいろあって頭の中が一杯でした。しかし、Stephen の地上での命は消える寸前のように思い、土曜日 (7 日) に会いに行くので待っていてください、と Stephen に頼んでもらう e-mail を出しました。日本からおいでになっていた塩釜バプテスト教会の大友牧師に土曜日に見舞いに行くことを話しましたところ、大友牧師は非常に感動して、観光時間を割いて一緒に病院へ行ってくれました。

Stephen は 3 週間の中に 3 度も手術を重ねたので、人口呼吸器を使ってやっと呼吸していてとても苦しうでした。そんな彼の姿でしたが、「私を待っていてくれたんだ」と思いました。彼とは話は出来ませんでしたが、こちらの話すことはちゃんと分かり、目でうなずいて会話をしました。大友牧師が日本語で祈り、日本語で賛美歌を歌いました。Stephen がそれを望んでくれたのです。

私は英語で Amazing Grace を歌いました。交代で寝ずの看病をしてきた息子さんもとても喜んでくれました。

今日、教会から帰って Email をあけると、息子さんからのメールがあり “Stephen は、私たちが帰ってしばらくして主の御許に帰りました” 主が私を見舞いに行かせて下さったことを感謝します。最後に会えて本当に良かったです。いつも恵子、恵子と言って私のことをいろんな人に話してくれた Stephen でした。彼も私が見舞いに行くのを苦しい中がんばって一生懸命待っていてくれたのだと思います。今は天国で素晴らしい人生を再出発しました。そのうちみんなと Stephen に会えますね。天国に行けば主をはじめ、多くの愛する人たちに会えると思うと、死ぬことも楽しみです。

恵子

支援会より

今年の和解の旅は、9月と10月の2グループが来日されます。

9月に来られるグループは、新潟県青海の捕虜収容所跡地で行なわれるメモリアル除幕式への参加です。

10月のグループは定期的に来られる和解のための来日です。それぞれの現在決まっている日程等をお知らせいたします。もしこの日程の中で、ご参加できる日、場所などがありましたら、ご一緒に参加、お交わりいただければ嬉しいです。詳しい日程などは、日本代表の小菅啓子さん、または、支援会までお問い合わせください。(今後、多少の変更があり得ます)

新潟県青海捕虜収容所跡地でのメモリアル除幕式への参加 (9月4日～17日)

英国からは恵子さんを含めて8名が参加されます。

9月4日(木)	羽田着	→	青海(新潟)6日(土)まで糸魚川泊
9月5日(金)	青海でのメモリアル除幕式参列		
9月6日(土)	糸魚川	→	箱根に移動 9日(火)まで箱根強羅泊
9月9日(火)	強羅	→	京都へ移動 13日(土)まで京都泊
9月13日(土)	京都	→	東京へ移動 17日(水)まで東京泊

14日（日）東京にて礼拝、15日（月）英国大使館訪問
9月17日（水）羽田発 ロンドンへ帰国

POW関係者の和解の旅（10月2日～15日）

英国からは恵子さんを含めて6名が参加されます

10月2日（木）羽田着 →長崎 →4日（土）まで平戸泊
10月4日（土）平戸→京都へ移動 8日（水）まで京都泊
5日（日）和解礼拝
10月8日（水）京都 →熊野（紀和町）へ移動12日（日）まで瀬流荘泊
11日（土）イルカボーイズ追悼式など
10月12日（日）熊野 →東京へ移動 15日まで東京泊
13日（月）保土ヶ谷墓地 14日（火）英国大使館訪問
10月15日（水）羽田発 ロンドンへ帰国

なお妻の豊代子は、次女の出産のため、6月21日から5週間ほどNYに行きます。この間、事務的なことなどに遅れがでることがあるかと思いますが、よろしく御理解のほどお願いします。

アガパワールド支援会（代表 小堀洋志）

195-0061 東京都町田市鶴川1-17-9 小堀方

Tel/Fax：042-810-5481 メール：kobori531@jcom.home.ne.jp

支援金送り先：名義は「アガパワールド」支援会

*郵便振替：00180-9-679184 青色振り込用紙を用意しています。

*ゆうちょ銀行：記号 10040 番号 29475731

*三菱東京UFJ銀行：普通口座 鶴川支店（233）番号 0319665